

家庭基礎学習指導案

- 1 履修単位数 2 単位
- 2 実施日時 令和3年10月19日（火） 第6時限
- 3 学 級 13HR（33名 男子14名 女子19名）
- 4 使用教科書 東京書籍『家庭基礎 自立・共生・創造』
- 5 単 元 名 第2章 子どもと共に育つ 3 親として育つ
- 6 単元設定の理由

今年の6月に育児・介護休業法が一部改正となり、希望に応じて男女ともに仕事と育児を両立するための措置が講じられることとなった。特に男性の育児休業取得促進のため、子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みが創設された。また雇用者側にも労働者が育児休業を取得しやすい環境を整備することが義務づけられることとなった。社会では「子育て罰」や「ワンオペ育児」「保活」など、子育て世代にとって重たい問題はたくさんある。

高校時代は、自分の将来を見据えながら人生の意思決定について考える重要な時期である。結婚をするかしないか、子どもを持つか持たないかなど生き方も多様化しているが、次の時代を担っていく子どもたちを地域や社会全体で育て見守っていくという視点は大切であり、未来の子育ての当事者である高校生にとっても他人事ではない。1学期に学習した性別役割分業意識やワークライフバランスなどの知識を活かしながら、夫婦で協力して子育てすることの意義や子育てと仕事を両立させるために必要なことを具体的に考えさせたい。現代社会で潜在化している保育環境の諸問題にも着目し、親として、また子どもの健やかな発達を見守る社会の一員として、「安心して子育てが出来る社会」の実現をめざす生徒を育てたい。

7 単元の見目標

- (1) 子どもを取り巻く環境や子育てにおける課題に関心を持ち、保育の重要性や社会の果たす役割を考えることができる。
- (2) 子どもの心身の発達や生活と環境との関わりについて、家庭及び地域社会の果たす役割を認識することができる。

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
子どもの発達と保育について関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して主体的に学習活動に取り組んでいる。	子どもの発達と保育について、現代の家庭や地域の生活を見つめて課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	子どもと適切に関わることができたり、子どもの健やかな発達を支援したりするために必要な技術を身に付けている。	子どもの発達と保育について理解し、家族及び地域や社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身に付けている。

9 指導計画

第1次 子どもの育つ力を知る…2時間

第2次 親として共に育つ …3時間

第1時 子どもの発達と保育

第2時 子どもの生活と保育

第3時 親として育つ（本時3／3時間）

第3次 これからの保育環境 …1時間

10 本時の指導目標

- (1) 夫・妻それぞれの立場から、根拠に基づき、ワンオペ家事・育児を回避するための方法について考えることができる。
- (2) 安心して子どもを生み育てるためには、家庭の自助努力だけでなく、企業や社会の支援体制の整備が必要であることを理解する。

1 1 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 5分	○前時の学習を振り返る。 ○本時の目標と活動内容について知る。	○「ワンオペ育児」の現状を振り返る。 ○本時の目標を明確に示し、活動について説明する。		
展開 40分	○家事育児の分担をペア(夫婦)で考え、タブレットを使ってシミュレーションしてみる。 ○他のペア(夫婦)と意見交換し、修正点があれば直す。 ○発表する。 (2～3班程度)	○架空家族の夫・妻それぞれの立場から、家事育児の分担を考えさせる。 ○それぞれの立場からの要望や妥協点、協力するポイントなどをまとめていくよう指示する。 ○他の夫婦と意見交換させて、分担シミュレーションを完成させる。 ○発表時に、分担していく際のコンセプトや工夫した点、苦労した点等を加えて説明するよう指示する。	○夫・妻それぞれの立場から、根拠に基づき、ワンオペ家事・育児を回避するための方法を考えている。 【思考・判断・表現】	ワークシート
	○男性・女性共に安心して子育てできる社会の実現のために必要なことは何かを考える。	○男性の育児時間や女性のM字型雇用など、夫婦や家族の努力だけでは、解決できない問題もたくさんあることに気づかせる。		
まとめ 5分	○本時のまとめを聞く。 ○本時の振り返りを行う。 ○次時の予告を聞く。	○安心して子育てができる社会を実現するためには、家庭・企業・社会の3つの連携した取組が必要であることを伝える。 ○6月に改正された育児介護休業法について触れる。	○安心して子どもを生み育てるためには、家庭の自助努力だけでなく、企業や社会の支援体制の整備が必要であることを理解している。 【知識・理解】	ワークシート